

排尿障害を契機に発見された処女膜閉鎖症の1例

国立病院機構奈良病院泌尿器科 (医長 : 山本雅司)

山 本 雅 司

高知会高井病院泌尿器科 (部長 : 原本順規)

原本 順規, 永吉 純一

西奈良中央病院泌尿器科 (部長 : 木村昇紀)

木 村 昇 紀

A CASE OF ATRESIA HYMENALIS IN A PUBESCENT GIRL WITH COMPLAINT OF DYSURIA

Masashi YAMAMOTO

From the Department of Urology, National Hospital Organization Nara Hospital

Masaki HARAMOTO and Jun-ichi NAGAYOSHI

From the Department of Urology, Takai Hospital

Shoki KIMURA

From the Department of Urology, Nishinara chuo Hospital

A 12-year-old girl was referred to the National Hospital Organization Nara Hospital complaining of dysuria and lower abdominal pain. On examination of the external genitalia, vaginal opening was closed completely. Ultrasonography and magnetic resonance imaging revealed atresia hymenalis with hematocolpos. Hymenal incision was carried out and clinical symptoms were improved. Seventy-eight cases of atresia hymenalis reported in the Japanese literature since 1987 are reviewed. It is necessary to include atresia hymenalis in diagnosis of voiding difficulty in pubescent girls.

(Acta Urol. Jpn. 50 : 889-891, 2004)

Key words: Atresia hymenalis, Dysuria

緒 言

処女膜閉鎖症は鎖陰の1つであり、月経血が排出されないために生じる膣留血腫に起因する排尿障害を主訴として泌尿器科を受診する場合もある¹⁻⁴⁾

今回、われわれは排尿困難を契機に診断された処女膜閉鎖症の1例を経験したので若干の文献的考察を加えて報告する。

症 例

患者 : 12歳, 女児

主訴 : 排尿困難, 下腹部痛

既往歴 : 特記すべきことなし

家族歴 : 祖父に腎盂癌

現病歴 : 2004年1月20日頃より時々下腹部痛を自覚していた。1月25日より排尿困難が出現してきたため、1月27日精査目的にて当科を受診した。なお、初潮は未発現であった。

初診時現症 : 身長 159 cm, 体重 48 kg. 乳房発育良好, 恥毛 (+)。外陰部視診にて膣口は完全に閉鎖



Fig. 1. External genitalia. Vaginal opening was closed completely.

していた (Fig. 1)。

検査所見 : 末梢血, 生化学検査では WBC が $9,200/\text{mm}^2$ と軽度の上昇をしていた以外に異常を認めず。また, 尿検査も正常であった。

画像診断 : 初診時の腹部超音波検査にて膀胱後方に $5 \times 5 \times 9 \text{ cm}$ の嚢胞状腫瘍を認めた。MRI では血腫

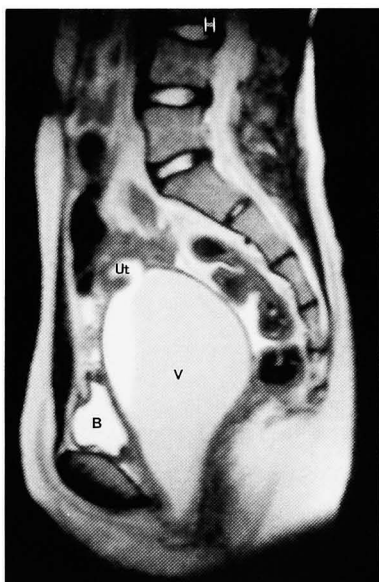


Fig. 2. MRI (T2-weighted) revealed a retrovesical cystic mass, suggesting hemato-colpos. B: bladder, V: vagina, Ut: uterus.

にて拡張した膣が描出され、膀胱は前方へ圧排されていた (Fig. 2)。なお、DIPにて膀胱が軽度圧迫されていたが、両腎には異常を認めなかった。

尿流率測定：最大尿流率 5.9 ml/s, 平均尿流率 3.5 ml/s (排尿量 70 ml, 残尿 15 ml)。

入院経過：以上の所見より、処女膜閉鎖症による膣留血腫と診断し、当院婦人科に入院のうえ、2004年2月26日処女膜十字切開術が施行され、凝血塊約 300 ml が排出された。術後経過は良好で、排尿状態は最大尿流率 33.2 ml/s, 平均尿流率 13.4 ml/s (排尿量 266 ml, 残尿 0 ml) と改善した (Fig. 3)。また、術後定期的に月経がみられている。

考 察

処女膜閉鎖症は鎖膣 (vaginal agenesis) のうち、

機能のある子宮を伴う膣閉塞における代表的疾患である。胎生期における尿生殖洞の発生異常が原因とされており、その頻度は全婦人科疾患の0.014~0.024%と報告されている⁵⁾

処女膜閉鎖症の症状発現年齢としては、新生児期と思春期のふたつの年齢層が主である。新生児期では母体のエストロゲンの影響により過剰分泌された子宮頸管粘液が貯留するために膣留水腫が形成され下腹部腫瘤として発見されることが多いが、なかには数日以内に速やかに排液しないと腸管、尿管を閉塞し、時には呼吸困難となる場合もある⁶⁾。一方、思春期では初経発来まで無症状で経過することが多く、排泄されない月経血が貯留するために膣留血腫が形成され、これに起因する様々な臨床症状を呈して初めて発見される症例が大部分である。発見の契機となる臨床症状としては月経周期に一致した周期的下腹部痛 (月経モリミナ) や下腹部腫瘤などが多いが、留血腫の圧迫による腰痛、肛門痛、便秘および排尿障害が主訴となることもある。

本邦における処女膜閉鎖症の臨床的検討としては、志賀ら⁴⁾の1987年以降に報告された処女膜閉鎖症44例の集計がある。今回、これらにわれわれが調べた2003年までに報告された症例を加えた、自験例を含む78例について検討した。発症年齢は生後1日から29歳 (中央値12歳) で、11歳から13歳のいわゆる初経年齢症例が53例を占めていた。臨床症状としては下腹部痛が55例 (70%)、下腹部腫瘤または膨満感が12例 (15%) と下腹部症状が多く、他に腰痛が13例 (17%)、肛門痛が7例 (9%) および排便異常が6例 (8%) にみられている。排尿障害が認められたものは33例 (42%) であり、これらの内訳は尿閉が19例、排尿困難が9例、頻尿が3例、残尿感および尿失禁が各々1例であった。本疾患に排尿障害を有する頻度については Calvin ら⁷⁾が58%、志賀ら⁴⁾が41%と報告

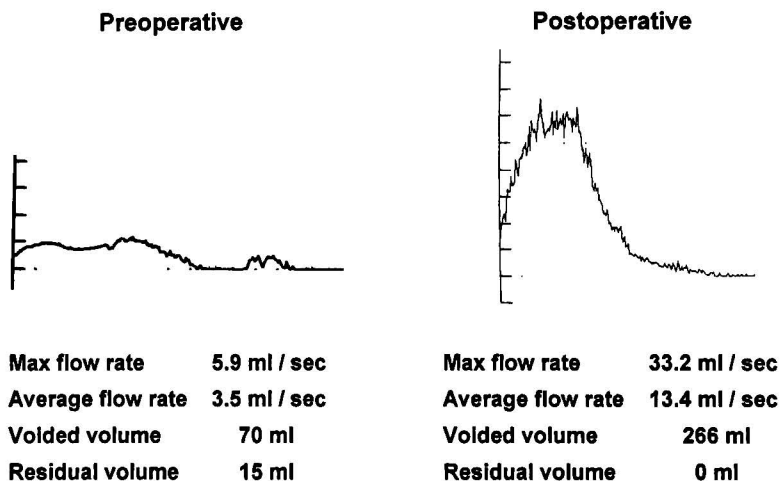


Fig. 3. Uroflowmetry. Right: before the operation, Left: after the operation.

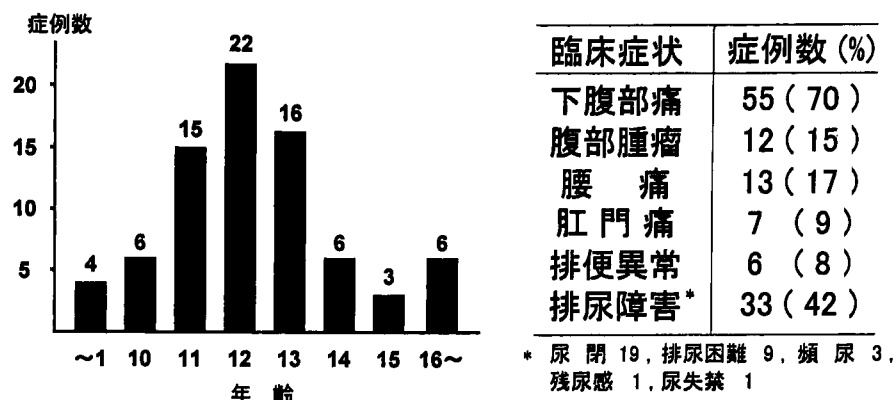


Fig. 4. Age distribution and clinical symptoms of atresia hymenalis reported in the Japanese literature since 1987. Left: Age distribution ranged from 1 day to 29 years (median 12 years). Right: Forty-two percent of the patients complained of urological symptoms.

しているが、今回の検討では42%と後者とはほぼ同頻度であった (Fig. 4).

また、処女膜閉鎖症には時に尿路奇形を合併することがある。腎の無形成や低形成が主であるが、新生児症例で子宮への尿管異所開口を伴った例も報告されており⁸⁾、処女膜閉鎖症の診断が確定した際には上部尿路の精査もあわせて行なっておくべきであると考ええる。

処女膜閉鎖症の診断は、問診から本症を疑い、外陰部視診を行なうことにより容易であるが、患者が思春期である場合が多く、外陰部視診が躊躇される場合がある。今回は、まず腹部超音波検査施行し、患者に画像を提示し、処女膜閉鎖症が強く疑われ、外陰部視診が必要であることを説明することにより、患者が外陰部視診をスムーズに受け入れることができた。腹部超音波検査により膣留血腫が発見された処女膜閉鎖症の報告もあり^{9,10)}、今回のような診断手順も早期に処女膜閉鎖症を診断する1つの方法であると考ええる。

結 語

1. 排尿障害を契機に発見された12歳、女兒の処女膜閉鎖症の1例を経験した。

2. 1987年以降に本邦で報告された自験例を含む78例の処女膜閉鎖症について臨床的検討を行なった。

3. 処女膜閉鎖症の診断は、腹部超音波検査によるスクリーニングも有用であるが、問診から本症を疑えば躊躇なく外陰部視診を行なうべきである。

本論文の要旨は第187回日本泌尿器科学会関西地方会において発表した。

文 献

- 1) 石田武之, 小泉久志, 脇 博樹, ほか: 尿閉を主訴とした処女膜閉鎖症. 臨泌 **49**: 424-426, 1995
- 2) 滝花義男, 村田明弘, 小室三津雄, ほか: 頻尿を主訴とした処女膜閉鎖症の1例. 泌尿器外科 **9**: 887-889, 1996
- 3) 小田切範晃, 松本勇太郎: 思春期に腹痛および尿失禁を主訴としてみつかった処女膜閉鎖症の1例. 磐城共立病医報 **19**: 42-45, 1998
- 4) 志賀淑之, 荒木彰宏, 山本貴大, ほか: 抗ヒスタミン剤内服下に急性尿閉を来した処女膜閉鎖症の1例. 日泌尿会誌 **94**: 448-451, 2003
- 5) 川上 博: 女性性器の奇形, 發育 位置異常, 損傷, 炎症. 現代産科婦人科学大系. 小林 隆編. 第1版, 第8巻A, pp 12-14, 中山書店, 東京, 1971
- 6) Mckusik VA, Bauer RL, Koop CE, et al.: Hydrometrocolpos as a simple inherited malformation. JAMA **189**: 813-816, 1964
- 7) Calvin JK and Nichaman ST: Hemotocolpos due to imperforate hymen. Am J Dis Child **51**: 832-846, 1936
- 8) 光藤伸人, 池上 等, 藤本慎一郎, ほか: 処女膜閉鎖症と異所性尿管の合併により発症した尿子宮腔症の1例. 小児科 **40**: 187-189, 1999
- 9) 堤 明裕, 近藤良介, 山越統雄, ほか: コメディカルによる腹部超音波検査にて, 子宮腔留血腫を認めた処女膜閉鎖症の1例. 産婦の進歩 **51**: 562-567, 1999
- 10) 三木之美, 西條晴美, 稲畑利彦, ほか: 処女膜閉鎖症の診断に腹部超音波検査が有用であった1例. 医学検査 **52**: 1067-1069, 2003

(Received on April 7, 2004)
(Accepted on July 29, 2004)